

平成27年度 亀岡市支えあいまちづくり協働支援金

事業報告会資料

亀岡市 生涯学習部 市民力推進課

平成27年度亀岡市支えあいまちづくり協働支援金事業報告会

- P 1 ~ 3 実績報告一覧
- P 4 ~ 8 収支決算一覧
- P 9 ~ 18 亀岡みらいパス
「みんなで作ろう！亀岡の未来図」
- P 19 ~ 22 Office Com Junto(オフィス・コン・ジュント)
「多文化共生事業
-外国につながりを持つ子と保護者の支援を通して-」
- P 23 ~ 26 障がい児支援団体キッズ・バリアフリー
「障がいの有無に関わらず共に遊ぶ学ぶ場支援」
- P 27 ~ 30 わたぼうしの会
「なんたんで普通にくらすことⅡ 青山浩美さんコンサート」
- P 31 ~ 37 NPO法人亀岡子育てネットワーク
「0・1・2・3歳親子room COCOいく」
- P 38 ~ 41 (一社)京都社会福祉士会中部支部口丹地区
「第13回社会福祉公開講座」
- P 42 ~ 45 NPO法人亀岡人と自然のネットワーク
「アユモドキ架け橋プロジェクト2015」
- P 46 ~ 49 NPO法人プロジェクト保津川
「これからの地域を担う次世代人材育成事業『じぶん未来塾』」
- P 50 ~ 54 亀岡サンセットフェス実行委員会
「亀岡マルシェ」
- P 55 ~ 62 NPO法人みんなのネットワーク
「アユモドキの保全と京都サンガの応援事業」
- P 63 ~ 66 万願寺ふれあいサロン
「万願寺ふれあいサロン」
- P 67 ~ 69 亀岡市遺族会女性部
「戦後70年平和の尊さ祈念し 千羽鶴おりとDVD制作」
- P 70 ~ 74 NPO法人ブルーイーグルス
「地域のつながりによる安心・安全なまちづくりに向けた
市民参加の機運づくりと啓発事業」
- P 75 ~ 78 亀岡広島県人会
「市制60周年記念 亀岡市民全国県人会まつり」

平成27年度亀岡市支えあいまちづくり協働支援金

事業報告会

平成28年4月29日(金)

午後1時～4時

亀岡市役所1階 市民ホール

1	開場	13時00分
2	開会・あいさつ	13時30分
3	支えあいまちづくり協働支援金についての概要説明	13時35分
4	事業報告1	
	(1) 亀岡みらいパース	13時40分
	(2) Office Com Junto	13時45分
	(3) 障がい児支援団体キッズ・バリアフリー	13時50分
	(4) わたぼうしの会	13時55分
	(5) NPO 法人亀岡子育てネットワーク	14時00分
	(6) (一社) 京都社会福祉士会中部支部口丹地区	14時05分
	(7) NPO 法人亀岡人と自然のネットワーク	14時10分
5	質疑応答・意見交換	14時15分
6	休憩	14時35分
7	事業報告2	
	(8) NPO 法人プロジェクト保津川	15時00分
	(9) 亀岡サンセットフェス実行委員会	15時05分
	(10) NPO 法人みんなのネットワーク	15時10分
	(11) 万願寺ふれあいサロン	15時15分
	(12) 亀岡市遺族会女性部	15時20分
	(13) NPO 法人ブルーイーグルス	15時25分
	(14) 亀岡広島県人会	15時30分
8	質疑応答・意見交換	15時35分
9	あいさつ	15時55分
10	閉会	16時00分

§ 亀岡市支えあいまちづくり協働支援金交付決定事業実績報告一覧

団体名 (代表者名)	決算額 (円)	交付決定額 (円)	対象事業	事業名	事業内容	事業効果 (成果と効果)	実施期間	実施場所	参加人数	備考
万願寺ふれあいサロン(長澤豊)	109,000円	100,000円	スタート事業	万願寺ふれあいサロン	月1回程度の回数でふれあいサロンを定期開催し、高齢者が外出するきっかけづくりを行う。		平成27年8月1日～平成28年3月31日	万願寺区公民館		
亀岡市遺族会 女性部(廣瀬登代子)	143,860円	100,000円	スタート事業	(戦後70年、平和の尊さ折念し)千羽鶴おりとDVD制作	戦後を厳しく生きてきた遺族5名からお話を聞き、平和への願いを映像で記録した。また、千羽鶴を作り、9月19日に開催された戦没者追悼式で奉納した。	戦後70年を迎え、遺族の高齢化が進む中で、5名の遺族の御協力をいただき、肉声で記録することができ、後世に残すデータを収集することができた。	平成27年4月1日～平成28年3月23日	亀岡市内	記録映像作成 49人 千羽鶴おりり 72人	
亀岡みらい ベース(大江広一郎)	325,316円	200,000円	ステップアップ事業	みんなで作ろう！ 亀岡の未来図	亀岡の魅力を紹介するスゴイ人を囲む町の財産であるスゴイ人を囲み、地域の魅力を再発見した。	市外からの参加者も多く、亀岡の魅力を広く全国に発信することができた。また、多様な参加者を得たことで、次の構想へとつなげていくことができた。	平成27年4月1日～平成28年2月28日	法華寺、ガレリアかめおか	第7回 37人 第8回 26人 第9回 32人 第10回 15人 第11回 250人 第12回 200人 ソーニヤル大学 180人 第3回 40人 第4回 140人	
Office Com Junio(児嶋きよみ)	245,171円	200,000円	ステップアップ事業	多文化共生事業 一外国につながる子どもと保護者の支援を通して	ひまわり教室、33回開催 月3回火曜日夜間を中心に学習指導を実施 指導者研修 3回開催 指導方法、評価の研修会の開催 子どもグローバルセッション 多文化共生を理解する場づくり	学習支援に留まらず、自分の困ったことを話せる居場所としても機能している。また、会場を2ヶ所に増やすことができた。子どもの担任教師が参観に来られるなど、関係を築くことができた。	平成27年4月1日～平成28年3月31日	馬路文化センターほか	ひまわり教室 子ども11人、母親9人 指導者研修 51人 子どもグローバルセッション 20人	
障がい児支援 団体キッズ・ バリアフリー (末吉 理花)	249,645円	200,000円	ステップアップ事業	障がいの有無に関わらず共に遊び学ぶ場支援	・親子の絆を深めるための「親子ハンドマッサー」講座(年4回開催) ・子どもたちへの共感教育の機会として講演会開催 ・子育てに関する相談支援場所などを紹介するリーフレットの製作(2,000部)		平成27年4月3日～平成28年3月31日	ガレリアかめおかなど		
わたぼうしの 会(井上 真由美)	209,533円	195,000円	ステップアップ事業	～なんたん～で普通にくらすことⅡ～ 青野浩美さんコンサート	気管切開をした声楽家、青野浩美さんのコンサートやお話を通じて、自分自身の障害を受け入れること、医療ケアの重要性などを幅広い年齢層の一般市民にPRした。	来場者と医療ケアを必要とする人の現状や課題を共有することができた。また、医療ケアに対する一般市民の認知度を把握することができ、今後の啓発活動への参考情報を入力できた。	平成27年4月1日～平成28年9月30日	ガレリアかめおか	120人	

S 亀岡市支えあいまちづくり協働支援金交付決定事業実績報告一覧

団体名 (代表者名)	決算額 (円)	交付確定額 (円)	対象事業	事業名	事業内容	事業効果 (成果と効果)	実施期間	実施場所	参加人数	備考
NPO法人亀岡子育てネットワーク(田中美賀子)	877,185円	200,000円	ステップアップ事業	0・1・2・3歳親子room COCOLOく	子どもの月齢によってクラス分けし、親子が自然にふれあえるあそびなどを通して、子育てのノウハウを伝えた。今年度は参加費を抑えたクラスを追加し、これまで参加しなかった親子の参加を促した。8クラス、合計77回開催。特別講座4回開催	生後1ヶ月～保育所(園)・幼稚園に入園するまでの、家庭で子育てをしている親子を心身ともにフォローできる場として、大切な事業となった。	平成27年4月1日～平成28年3月31日	ふらっとHOUSE(追分町)ほか	1,116人	
(一社)京都社会福祉士会中筋支部(前田直美)	107,740円	56,000円	ステップアップ事業	第13回社会福祉公開講座	高齢者の居場所づくりを考える上で、認知症に焦点を当て、認知症カフェに関する公開講座を開催した。	認知症予防に重点が置かれた従来の講座と異なり、認知症の方への支援に重点が置かれ、地域福祉への理解が深めることができました。	平成27年5月8日～平成28年3月6日	ガレリアかめおか	参加者:57人	
NPO法人亀岡人と自然のネットワーク(上田 稔)	128,593円	128,000円	ステップアップ事業	アユモドキ架け橋プロジェクト2015	アユモドキの飼育や啓発活動を行う岡山の関係者と接触し、そのノウハウを亀岡市に伝える報告会などを開催するほか、啓発活動を展開した。報告会(講演会)8月8日(土)開催。啓発活動10月3日(土)環境フェスタ	岡山と亀岡の小学校間の交流の基礎を作ることができた。今後の小学校同士の交流も実現する可能性が高くなった。	平成27年6月1日～平成27年12月28日	岡山市立高島小学校、千種小学校、岡山シティミュージアム 亀岡市文化資料館、ガレリアかめおか	報告会(講演会)56人 啓発活動約1,000人	
NPO法人ブルレーイーグルス(田中義雄)	532,440円	200,000円	ステップアップ事業	地域のつながりによる安心・安全なまちづくりに向けた市民参加の機会づくりと啓発事業	地域住民が取り組める活動をまとめたパンフレットを作成・配布を行い、意識啓発を行った。活動へ参加希望の人などに青色防犯ハット・ヘルメット、独居老人見守り活動へ参加してもらった。		平成27年8月1日～平成28年3月31日	亀岡市内全域(主に旧亀岡町内)		
亀岡広島県人会(井手口幸男)	134,038円	130,000円	ステップアップ事業	亀岡市制60周年記念 亀岡市民全国県人会まつり	亀岡に住む他都道府県出身者を集め、県人会まつりを開催することで、退職者のコミュニケーションの場づくりを行った。また、今後の県人会設立に向けて、亀岡市内に住む他都道府県出身者の把握を行った。	多くの参加者があり、第1回目としては成功に終わることができた。また、今後の開催に向けての基礎資料を収集することができた。	平成27年8月1日～平成27年12月28日	ガレリアかめおか	アンケート回答者183名 当日参加者約250名	
NPO法人プロジェクト(原田保津川)(原田 樹夫)	646,300円	200,000円	市民連携事業	これからの地域を担う次世代人材育成事業「じぶん未来塾」	中学生・高校生を主な対象とした観光交流講座を実施し、「就業力」の向上を図る。(10名程度を想定)		平成27年6月1日～平成28年3月31日	団体会議室ほか		

ステップアップ事業

市民連携事業

§ 亀岡市支えあいまちづくり協働支援金交付決定事業実績報告一覧

団体名 (代表者名)	決算額 (円)	交付種別額 (円)	対象事業	事業名	事業内容	事業効果 (成果と効果)	実施期間	実施場所	参加人数	備考
市民連携事業 亀岡センター トフェス実行委 員会(押野 真志)	2,828,944円	200,000円	市民連携 事業	亀岡マルシェ Vol.2	マルシェを開催し、音楽発表の場作りをするほか、亀岡の農産物などを使った飲食ブースなどで魅力を発信した。また、間伐材やリユース食器の活用などを週じ、環境に優しいイベントづくりを実施した。(平成27年10月31日、11月1日開催)	イベントの定例化に向けて継続開催の意義は大きかった。また、リユース食器の導入などで大幅なゴミ削減に成功し、モデル事業としての役割を果たすことができた。	平成27年4月1日～平成27年12月31日	保津川河川敷	約3,000人	
行政連携事業 NPO法人み んなのネット ワーク(坂本 信雄)	1,121,687円	373,000円	行政連携 事業	アコモドキの保全 と京都サンガの心 援事業	ホムチームとなる京都サンガの応援と天然記念物アコモドキの保全を一体的に盛り上げるため、寄付付きグッズの開発を行う。今年度はロゴマークの選定を行う。		平成27年4月10日～ 平成28年3月31日	亀岡市内		

亀岡市支えあいまちづくり協働支援金交付事業収支決算一覧

単位(円)

	団体名	万願寺ふれあいサロン		亀岡市遺族会女性部		亀岡みらいパース	
	項目	予算	決算	予算	決算	予算	決算
収入	協働支援金	100,000	100,000	100,000	100,000	200,000	200,000
	自己資金			100,000	43,860	16,671	16,816
	事業収入等	55,000	9,000			108,000	108,500
	他の補助金						
	寄付金						
	その他						
	合計	155,000	109,000	200,000	143,860	324,671	325,316
支出(対象経費)	報償費	55,000	21,000	50,000	35,000	129,000	128,000
	人件費						
	交通費						
	旅費			30,000	24,000	3,000	30,000
	研修費						
	消耗品・備品費	50,000	80,000	7,000	10,054	3,536	8,680
	印刷製本費	20,000	5,000	8,000	540	55,000	34,500
	通信運搬費			5,000		9,520	
	保険料					5,000	
	使用料及び賃借料	30,000	3,000	10,000		35,647	70,396
	飲食費					9,500	5,300
	手数料						
	広告宣伝費						
	委託料			50,000	50,000	24,800	37,800
	役務費						
	間接経費						
計	155,000	109,000	160,000	119,594	275,003	314,676	
支出(対象外経費)			40,000	24,266	49,668	10,640	
合計	155,000	109,000	200,000	143,860	324,671	325,316	

単位(円)

団体名	Office Com Junto		障がい児支援団体 キッズ・バリアフリー		わたぼうしの会	
	予算	決算	予算	決算	予算	決算
収入						
協働支援金	200,000	200,000	200,000	200,000	195,000	195,000
自己資金	10,000	471	22,500	39,445		14,533
事業収入等	114,000	44,700	12,000	10,200		
他の補助金						
寄付金						
その他						
合計	324,000	245,171	234,500	249,645	195,000	209,533
支出(対象経費)						
報償費	234,000	172,000	56,000	50,000	70,000	85,519
人件費						
交通費				3,000		
旅費			76,600	55,000		
研修費						
消耗品・備品費	30,000	34,251	45,000	87,208	15,000	14,433
印刷製本費	40,000	2,570	45,000		45,000	32,030
通信運搬費					10,000	16,074
保険料			6,900			
使用料及び賃借料	20,000	16,810	5,000	2,864	55,000	27,777
飲食費				4,317		
手数料						33,700
広告宣伝費				7,700		
委託料						
役務費						
間接経費						
計	324,000	225,631	234,500	210,089	195,000	209,533
支出(対象外経費)		19,540		39,556		
合計	324,000	245,171	234,500	249,645	195,000	209,533

単位(円)

団体名	NPO法人 亀岡子育てネットワーク		(一社)京都社会福祉士会 中部支部口丹地区		NPO法人 亀岡 人と自然のネットワーク		
	項目	予算	決算	予算	決算	予算	決算
収入	協働支援金	200,000	200,000	56,000	56,000	128,000	128,000
	自己資金		2,485	59,250	51,740	20,200	593
	事業収入等	746,000	674,700				
	他の補助金						
	寄付金						
	その他						
	合計	946,000	877,185	115,250	107,740	148,200	128,593
支出(対象経費)	報償費	66,816	66,816	50,000	50,000	25,000	0
	人件費	620,740	537,265				
	交通費						
	旅費	53,800	42,380	6,000	2,000	35,949	32,670
	研修費						
	消耗品・備品費	113,119	162,172	4,000	1,079	27,367	51,247
	印刷製本費	45,000	27,111	10,000	4,020	6,534	13,770
	通信運搬費			250		6,700	10,876
	保険料	1,425	2,850				
	使用料及び賃借料	5,100	5,580	45,000	46,781	26,650	16,120
	飲食費				804		
	手数料						
	広告宣伝費						
	委託料						
	役務費						3,910
	間接経費						
計	906,000	844,174	115,250	104,684	128,200	128,593	
支出(対象外経費)	40,000	33,011		3,056	20,000		
合計	946,000	877,185	115,250	107,740	148,200	128,593	

単位(円)

	団体名	NPO法人ブルーイーグルス		亀岡広島県人会		NPO法人プロジェクト保津川	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算
収入	協働支援金	200,000	200,000	130,000	130,000	200,000	200,000
	自己資金	280,000	232,440	0	4,038	1,100,088	400,800
	事業収入等			50,000	0	45,000	45,500
	他の補助金	100,000	100,000				
	寄付金						
	その他						
	合計	580,000	532,440	180,000	134,038	1,345,088	646,300
支出(対象経費)	報償費			70,000	25,000	150,000	316,739
	人件費					648,000	162,240
	交通費						52,660
	旅費			0	200	150,000	
	研修費						2,400
	消耗品・備品費	460,000	392,040	0	51,935	32,000	33,079
	印刷製本費	80,000	86,400	48,000	27,374	250,000	60,480
	通信運搬費			13,000	7,156	15,088	6,486
	保険料			0	1,500		
	使用料及び賃借料	4,000		49,000	20,000		
	飲食費						
	手数料						216
	広告宣伝費						
	委託料	36,000	54,000				
	役務費						
	間接経費					100,000	
計	580,000	532,440	180,000	133,165	1,345,088	634,300	
支出(対象外経費)			0	873		12,000	
合計	580,000	532,440	180,000	134,038	1,345,088	646,300	

単位(円)

	団体名	亀岡サンセットフェス 実行委員会		NPO法人みんなのネットワーク	
	項目	予算	決算	予算	決算
収入	協働支援金	200,000	200,000	452,000	373,000
	自己資金	800,000	584,944	1,080	
	事業収入等	628,000	68,000		
	他の補助金	1,200,000	1,976,000	904,000	746,000
	寄付金				
	その他				2,687
	合計	2,828,000	2,828,944	1,357,080	1,121,687
支出 (対象経費)	報償費	240,000	94,715	230,000	65,000
	人件費				
	交通費				
	旅費	20,000	16,450		
	研修費				
	消耗品・備品費	678,000	389,462	32,400	49,231
	印刷製本費	150,000	150,660	347,760	314,712
	通信運搬費	31,000	31,600		
	保険料	15,000	11,200		
	使用料及び賃借料	818,000	217,797	205,200	100,629
	飲食費				
	手数料				
	広告宣伝費	410,000	744,120	193,320	269,384
	委託料	445,000	814,612	248,400	227,860
	役務費		15,548		
間接経費	21,000		100,000		
計	2,828,000	2,486,164	1,357,080	1,026,816	
支出(対象外経費)		342,780		94,871	
合計	2,828,000	2,828,944	1,357,080	1,121,687	

事業報告書

団体名：亀岡みらいパース

1. 事業名	みんなで作ろう亀岡の未来図
2. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)

「亀スゴっ！亀岡の魅力を語ろう」シリーズ まちの魅力は人がつくりだす。まちの財産ともいえるスゴイ人たちを囲みいろいろなお話をお聞きして地域の魅力を再発見する場として昨年度に継続し今年度も第7回～第12回の6回を開催しました。

「ソーシャル大学」 城下町と流域文化、歴史、独自の観光スタイルをじっくり学ぶ場として昨年度に継続し今年度も第3回、第4回の2回を開催しました。

■亀スゴっ！報告

○第7回 亀スゴっ！「フェアトレードで亀岡から世界へ」
平成27年4月25日(土)14時～16時 法華寺(亀岡市本町) 参加者総数37名

ゲストには、栽培した人の顔の見えるコーヒー豆をエクアドルから仕入れている春風珈琲の日下部伸行さんと、スリランカで衣料縫製センターを立ち上げた初代詠子さんにお越しいただきました。

・日下部さんは大学を卒業してコーヒー会社で働かれ、その後、コーヒーの産地である南米のエクアドルを訪れたそうです。コーヒー栽培は森を開発してコーヒー畑にすることが一般的ですが、エクアドルのインタグ地方には森林農法という、森の状態のまま木の下でバナナや野菜、コーヒーなどを作る農法があります。コーヒーはある程度日陰があった方がよいので森林農法に適している上、コーヒーが不作であっても他の食べ物も作ることができる自然と共に生きていく農法です。

そんな山奥の森で十数年前に、外部から銅の鉱山開発の計画が持ち上がったそうです。銅を採掘すれば一時的に儲かりますが、森を失ってしまいます。そこでこの地域の人々は開発による目先の儲けではなく、この森を将来に伝えていく方を選び、今もコーヒーを栽培し販売しているそうです。日下部さんのコーヒーはそんなエクアドルの森で作られた豆を使われているのです。

・日下部さんの「おいしい珈琲の淹れ方講座」

珈琲の淹れ方について、たくさんの質問にも答えて下さり、目の前で具体的にわかりやすく教えていただいています。

・初代さんはPunchi Lamai(パンチラマイ)のプランニングスタッフとして、2014年5月スリランカに渡り、北西部の村でIrata(イラータ)プロジェクト染色縫製センターを立ち上げられました。

もともとのきっかけはPunchi Lamai(パンチラマイ)を経営する藤原響子さんから声がかかり、自分が持つ縫製の技術で指導ができると思ったことからだそうです。

現地に行く前は、スリランカの女性2, 3人に縫製を指導すると聞いていたのが、いざ現地に行っていれば30人もの女性たちが待っていて、その中から3-4人を選ぶはずが、通訳のいい加減さが原因で全員に縫製を教えることになってしまったそうです。

文化や習慣の違いによる価値観の違いはしょっちゅうで、生地を触る前には手を洗うという指導から始め、縫製では縫って形になっていけばいいと思っているスリランカの女性たちに、丁寧に縫うことを教えるといった日々だったとのこと。経済成長の著しい近隣の国のインドですら、縫い物は返し縫いをしない(※返し縫いをしないと糸がすぐほどけます)、チャックは粗悪品しかない状態で、日本で商品として買ってもらえる製品となるように指導をしていくのは大変困難だったようです。

現在は、適性から判断して4人に集中的に洋服づくりを教えているとのこと。彼女たちを中心に最終的にはスリランカの女性たちが自分たちで染色縫製センターの事業を運営していくことが目標だそうです。

亀スゴっの会場では、スリランカの草木を使い染色された布から仕立てた洋服がたくさん陳列されました。司会を務める住職の杉若から、明るい色の作務衣の発注がありました。

染色の材料には、ジャックフルーツ、ターメリック、アラルの実、パヌギ(木の皮)、蘇芳、柿渋のようなものが使われています。天然素材で染めた布の取り扱い上の注意として、中性洗剤で日陰干しをすることがありました。日光で干すと色が褪せ、漂白剤入りの洗剤では色が消えていくそうです。このようなデリケートさがあってこそ、自然素材によるやさしい発色があるのかもしれません。

最後はPunchi Lamai(パンチラマイ)の服を着こなす女性たちのファッションショーで締めくくられました。ボランティアでモデルを務めてくださったみなさま、ありがとうございました。

○第8回 亀スゴっ!「ようこそ kameoka へ!」

平成27年6月27日(土)14時~16時 法華寺 参加者総数26名

亀岡には外国にルーツを持つ家族のいる方が数多くおられます。私たちのまちが持つホスピタリティ、ボランティア。それらを発揮しながらの多様な取り組みがこの亀岡にあり、外国にルーツをもつ方々との相互の様々なシーンが生まれ育っていることも亀スゴっ!であると考えます。今回は亀岡での取り組み紹介と外国からの方々が実際暮らしてみて如何なものか? パネラーの方々からお話を伺いました。

司会はいつもの杉若住職。住職の其々遠慮なくお話し下さいの設定に話題は縦横無尽に進行し、時に笑いに包まれながらも貴重なお話を伺う事が出来ました。

終了後パネラーの方々から「気持ちよく話すことが出来た」参加者からは「楽しかった。」「今までの亀スゴっの中で一番良かった」等感想をお寄せいただいています。

さまざまな分野の方々と話し合ったこの会は、参加したピラヤターンさんが後日亀岡の他グループの企画に招待されたり、また今回を機に「ドロップイン」に向けての新たな動きが生まれるきっかけ作りとなりました。

当日の簡単なグループ紹介と「日本に来てどうですか? 亀岡はどうですか?」の質問に限定してみなさんのお答えを抜粋致します。

・パネラー

ハーズゲリーさん(アメリカ)、陳溪嶢(ちん けいぎょう)さん(中国)、ピラヤターンさん(タイ)、ジーン坂本さん(フィリピン)、豊田覚司さん(京・くろかる隊代表)、藤原翠子さん(ゲストハウス藤原邸運営)、児島きよみさん(ひまわり教室主催)

・グループ紹介

[京・くろかる隊]

豊田覚司さん:2010年から活動。クロカルの名前の由来は「クロスカルヤー」から「クロカル」。日本語教室の支援、市民との交流、外国の料理教室を開催、「パウワウ英会話教室」を開催、外国の方から得意分野を学ぶ機会を開催。盆踊りの練習等、活動内容は多彩。[ゲストハウス藤原邸]

[ゲストハウス藤原邸]:藤原翠子さん:築200年以上の古民家からゲストハウスへと大規模な改造をして10年余り。古い家の中にある物を片づけ現在のよう宿泊可能なゲストハウスになる。その整理中に出た不要な物は4トントラック3台以上となる。外国からの学生さんのリピーターが数多く、オクラホマ州立大学の学生が亀岡訪問時には宿泊場所となっている。最近では心を病んでいる人がお料理をしたり、中年の方の英会話教室など、さまざまな活動の場を提供。今では、ニューヨークでダンスをしている人が定期的に利用したり、週に3日は「ワンディカフェ」が開かれるようになり環が広がっている。[ひまわり教室]

[ひまわり教室]児島きよみさん:現在、週に一度(火曜日)夕方6:00~7:30、ひまわり教室を開催。1対1で、子どもと向き合い勉強を教える。話ができるが読み書きができない母親の方も一緒に勉強したいと参加している。1対1での学習形式で、本人のやりたいことを、やりたい方法でできる。1対1であれば、安心して質問しやすい教室。

・質問

[日本に来てどうですか? 亀岡をどう感じますか?]

:日本語も話せるけれど、話そうとすると無口になる。(英語の方が楽に話せるという意味)

:日本は全部好き! 食べものおいしい。アメリカのハンバーガーは大き過ぎるね。

:京都は日本を代表する町、中国の文化がまだ京都には残っている。古い文化を学びたくて日本語を学んだ。2009年に福井市にいて日本語学校に行っていた。福井市が大好き! 幸福度トップの市。駅の近くに住んでいました。亀岡に来て、学園大を夜、散歩していたら、何もないので驚いた。福井より何も無い。

:亀岡は定年になって住むにはよい町だが。2日前、日本人に質問したところ「亀岡の良いところは?」「田舎」、「悪いところは?」「田舎」(会場笑)

:湯の花温泉は宿泊も温泉の利用も料金が高すぎる。その割に部屋が古い。アパートなどの家賃も高い。

:日本の自然、季節の移り変わりが美しく、日本に住みたいと思い、京都に留学した。大阪兵庫京都の若い世代と兵庫県佐用町の良いところを冊子にまとめている。田舎の良いところは、自然が豊か、コミュニティもいい。田舎は田舎でいい。背伸びしたらダメで、自給自足をしてお金がなくても生きていける暮らしがよい。

: 亀岡は私の田舎と一緒に。16歳の時日本に来た。最初は名古屋、その次に亀岡に住み、亀岡で結婚した。故郷も霧があり田舎。夫が「ホタルを見に行かない？」と誘ってくれたとき、「ホタル」という名前の人に会いに行くのかと思った(笑)。ホタルを見て、みんな喜んでいたら、自分の故郷はもっと沢山ほたるが飛んでいる。

: ハローワークの手続きがとても困った。日本語が分からないので。

: 亀岡市役所でも、表示が中国語、英語。韓国語になってきたが、それでも書類の提出などにはサポーターが必要。書けない人には、書いてあげればいいと思う。

: 亀岡では自分の存在が目立つため疲れる。日本語がうまくなるともっと楽になる。それから、内と外の付き合い方が分かりにくいこともある。また、悪気がないのだろうけど、失礼なことをよく言われる。例えば「頭が、大きいね〜」とか。仕事からの帰りの電車の中で、嫌な言葉を聴くととても疲れる。

: 日本人の曖昧さが分かりにくい。「それは〜ちょっとお〜」と言われ、ここで文章が終わると意味が分からない。母国の場合は、率直に話す。(曖昧にしないで)最後まできちんと話してほしい。断る場合でも、最後まで言葉をはっきり言ってくれてかまわない。相手の気持ちを気にしなくていいから。

: 亀岡だと更に曖昧になって難しい。料理の味を尋ねてみても、「う〜ん、おいしい。う〜ん」で、「どっちやねん?!」と言いたくなる。

: 違う文化を感じる。1年目は環境にとけこもうと努力した。しかし、違いがわかったうえで、どちらも期待しないことにした。当たり前だと思わなくていいと思うようになった。

: 公の場や観光地等は表示に外国語が増えるとよい。今は道に迷ったとき困る。

: 安く泊まれるホテルや宿泊施設が少ない。湯の花温泉は高すぎる。

○第9回 亀スゴっ!「亀岡の由緒正しき妖怪たち・妖怪ウォッチング!」

平成27年8月29日(土)14時~16時 法華寺 参加者総数32人

ゲストは京都学園大学人間文化学部教授の佐々木高弘さん。

ご専門は文化・歴史地理学ですが、妖怪論研究者としても有名です。

佐々木先生のお話は、アニメ妖怪ウォッチの話から始まり、陰陽師から侍の時代への変化に伴う妖怪とのかかわりの変化、亀岡の妖怪、そして会場の法華寺の住職であり亀岡みらいパースのメンバーでもある杉若との対談へと進んでいきました。

”ゲラゲラポー”で一大ブームを引き起こした妖怪ウォッチの歌詞に深い意味が隠されていたことを知ったり、妖怪とは一体なにものなのか?という歴史的、政治的、地理的、心理的な要因など、様々な角度からの考察を伺いました。また亀岡と妖怪の関係にも歴史のある深い関係性がある事も学びました。

○第10回 亀スゴっ! 料理教室

講師「京懐石 雅」店主 西田浩二さん

10月7日 ガレリアかめおか 調理室 10時～14時 参加者総数 15名

秋の味覚をテーマに亀岡の食材を使い、プロの技を伝授いただきました。



「京懐石 雅」の西田さん(右)から料理のこつを聞く
参加者たち＝亀岡市余部町・ガレリアかめおか

和食のこつプロに学ぶ 亀岡で料理教室

亀岡市の市民グループ「亀岡みらいパース」は7日、余部町の「京懐石 雅」の店主、西田浩二さん(43)を講師に招いた料理教室を同町のガレリアかめお

の「京懐石 門」の店主を務めた後、5月に雅をオープンした。教室では、サワラのつみれ鍋やサツマイモの炊き込みご飯など4品を調理。西田さんは、火加減や食材の発色を保つポイントを丁寧に伝えていた。
参加した主婦の井上美佐緒さん(51)は「市販の料理本には載っていないプロの技を聞いた」と喜んでいました。
同グループは「亀スゴッ」と題して、さまざまな分野で活躍する亀岡ゆかりの人を招いた講演会や料理教室を定期的に開催しており、今回で10回目。
(中村幸恵)

京都新聞 に掲載されました。

○第11回 亀スゴっ! 「ムクムクマーケット！」

11月21日(土)10時～15時 法華寺 参加者総数 250名

11回目となる今回は、暮らしの中の道具の大切さや手作りの持つ価値など、日々の生活を見直すきっかけづくりとなるような、パン、お菓子、糍、野菜、コーヒー、古本などのマーケットを開催するほか、包丁コーディネーターの廣瀬康二さんにお話し頂きました。

亀スゴっとしても初めての試みとなるお寺でのマーケットは、亀スゴに毎回出店してくださっている「フェアトレード珈琲屋 春風」・「地元の無農薬・減農薬農産物を販売する 369商店」をはじめ、亀岡に最近 OPENした素敵なお店「cafe つきよみ」・「薪釜パン ふくくる」・「糍屋 qotoriya」、亀岡の若手農家「とうかげん」・「べじたぶるぼーと」、その他「ヴィーガンスイーツ 菓風」・「京都西陣の古本屋 KARAIMO BOOKS」・「Glass Studio Calore (グラススタジオカローレ)」・「天然酵母パン 森ふみこ」・「春ちゃんの手作りキムチ」・「ひろりんさんの手作り雑貨」・「向井さんの手作り4年味噌」・「井内さんのあんかけおこげ」の総勢15店舗がお寺の本堂に勢揃いしました。

10時の開始前から来られるお客様もいたくらい開始から途切れることなく人が来られてました。

法華寺の素敵な雰囲気の中でパンやカレーの匂い が漂い、それぞれ想いのこもった一品が所狭しと並ぶ、あ

る意味ぜいたくな空間だったのではないのでしょうか？出店者とお客様が話で盛り上がったり、子どもが走り回ったり、活気がありながら晴天にも恵まれ、のどかな雰囲気もあるマーケットとなりました。

お昼からは廣瀬さんの包丁ワークショップが行われ、普段なかなか聞くことのない包丁職人の話にみなさん耳を傾けていました。

初めての試みでしたが、たくさんのお客様に来て頂き完売したお店も多かったです。今回この場に来て頂くことで、後日お店を訪ねたり、新たな交流が生まれたり、亀岡の新しい一面を知るきっかけになったのではないかと思います。

○第12回 亀スゴっ！「町×人×アート」

平成27年2月6日(土) 法華寺 参加者総数 200名

今回は同時進行で行われているカメオカアートボンチ「おみせでさくひんてん」特集ということで、アートボンチに参加しているお店と作家が一挙に法華寺に集結しました。

お寺を舞台にした埴輪と陶芸と巨大画の大胆な展示コラボあり。仏像とはっさくのコラボあり。

入り口の合同 cafe では各お店自慢のおにぎり、サンドイッチ、お菓子、シフォンケーキ、パンが所狭しと並び、本堂ではコーヒーの良い香りの中でガラスや陶器や木工の作品が生き生きと輝いていました。

ぜんざいや鶏肉の赤ワイン煮込みを注文して特製巨大テーブルで飲食も楽しむことができ、たくさんの方にご来場いただきました。

途中のトークでは作家さん、お店屋さんそれぞれの思いを話して頂きました。アートボンチのきっかけはふとした閃きから話が盛り上がり「おもしろいことやろう」とお互いを良く知らないまま開催の運びとなったそうです。ギャラリーではなく普通のお店で展示してもらうことが面白いし、気軽に見てもらえるとのこと です。

アートボンチのお店は8店中6店が昨年できたということで、新店が本当に多いです！亀岡界限のお店が今盛り上がりつつあることが今回のイベントでも実感できたと思います。

私たちはこの亀岡アートボンチの取り組みが町の活性化としての一環であると評価し広く紹介いたしました。

■亀岡ソーシャル大学

○ 第3回亀岡ソーシャル大学

外国人観光客への本当の「おもてなし」とは…亀岡の観光未来図 ～これからの外国人観光客誘致(インバウンド)を考える！！

2016年1月31日(日曜日)PM 13時30分～17時00分 参加者総数 40名

【講師】

豊田知八さん(保津川遊船企業組合・理事長) 真鍋量さん(あっちこっちプロジェクト・代表)

林 亦峰(リン イホウ)さん(天橋立観光協会) 原田 禎夫さん(プロジェクト保津川代表)

亀岡市内外から 34 名の参加がありました。

亀岡のこれからの観光のあり方について、考えるヒントがたくさんつまった学びの場となりました。

以下、各講師のお話しの要点です。

①保津川遊船企業組合 理事長 豊田 知八さん・保津川下りにおける外国人観光客の動向と、今後の誘致戦略・保津川遊船の課題と「おもてなし」のあり方、そして、可能性

②あっちこっちプロジェクト 代表 真鍋 量さん・あっちこっちプロジェクトの活動内容と今後の展望・真鍋さんが考える外国人観光客に対する「おもてなし」とは…そして、各方面各所などの問題点（例えば、京都駅の案内所や案内板がわかりにくいなど）(だから市民レベルの案内ボランティアが必要など)

③天橋立観光協会 林 亦峰(リン イホウ)さん・天橋立観光協会がなされている誘致活動やその特徴。今後の展開や展望・台湾・中国の方へのより良い「おもてなし」とは…(観光における台湾人と中国人の違いなど)

④プロジェクト保津川 代表 原田 禎夫さん・亀岡の魅力と、観光未来の可能性、そして問題点・小さな町ができる外国人観光客への「おもてなし」とは

京都新聞に掲載されました。

○第 4 回亀岡ソーシャル大学『明智光秀と本能寺の変、そして亀岡』

2 月 27 日(土曜日)ガレリアかめおか 参加者総数140名

講師は「本能寺の変 431 年目の真実」の著者、明智光秀の末裔でもある明智憲三郎さんをお招きし講演して頂きました。

明智憲三郎さんから、

本能寺の変の真相をめぐる幾多の諸説がありながら、その多くの研究者は勝者側である豊臣秀吉が書かせた「軍記物」から引用を用いていることを指摘、本能寺の変と同時期に書かれた公家の日記やイエズス会の宣教師の記録などの資料を照らし合せて独自の視点で「歴史捜査」された説を述べられました。

また、歴史学会が見落としがちなこととして、戦国武将が本来一般教養とした「孫呉の兵法」(孫子・呉子)を当然学び活用して行動したこと、また「平家物語」や「吾妻鏡」などから得た一族が生き残る知恵、当時の戦国武将達が第一とする『生存合理性』を見落とししまっていることも指摘されていました。

第二部のフリートークでは、

明智憲三郎さんと亀岡市文化資料館の黒川館長、同文化資料館友の会の奥村としゆきさんと、会場の皆さんとで「丹波武士」の特性、明智光秀が亀岡に残した遺産などを熱く語られました。

今回、亀岡みらいパスといたしましては、かつての城主で亀岡の町の基礎を築いた明智光秀を再評価し、地域の歴史・文化・伝統を掘り起こすことを目的といたしました。

参加者の大多数が地元の亀岡の市民の方々ばかりで、やはり亀岡において明智光秀人気は絶大であることと、いかに亀岡市民が自分たちの郷土の歴史を愛しているかということの主催者側として確信することができました。

3. 成果	事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。
--------------	--

上記内容にて今年度は「亀岡の魅力を話そう！亀スゴっ！」6回、ソーシャル大学2回の8回を開催を通し、総参加者数は725人と昨年度を大幅に上回る参加者数となりました。

私たちは以下の2点を活動の課題としました。

- ・亀岡の伝統技術や文化的遺産を引き継ぐ人材を育てる事。
- ・新たな切り口で亀岡の魅力を作り出す若い世代と年配者との交流の場がない。

新しい着想で亀岡の魅力を作り出す若い世代と年配者が交流する場が無い。若い世代からも学び、世代を超え共に話し合い体験していく機会を作り次世代への布石を打つ時期であると考え。

今年度活動の目標を以下の4点としました。

- 1 亀スゴっ！ソーシャル大学の開催により、様々な立場の参加者と共に話し合い、亀岡での暮らしのあり方や将来への展望を分かち合う場を作り、新たな亀岡の魅力を掘り起こす未来図を参加者各々が探るきっかけ作りを目指す。
- 2 亀スゴっ！・ソーシャル大学のテーマを、次世代へつなぐ伝統技術の継承、城下町と流域文化、歴史を学ぶ、独自の観光スタイルへの取り組み等とする。
- 3 亀岡の伝統的な魅力(自然・文化資源)を伝承しながらも、現代との折り合いを探る取り組みを紹介する。
- 4 亀岡市内だけでなく市外にも広く呼びかけ亀岡の魅力を発信する場とする。

上記目標に沿い亀スゴっ！6回、ソーシャル大学2回のテーマを設定し、各回において成果を得、また参加者と共に活発な話し合いを持つことができました。

目標1について

亀スゴっ！ソーシャル大学の開催により、様々な立場の参加者と共に話し合い、亀岡での暮らしのあり方や将来への展望を分かち合う場を作り、新たな亀岡の魅力を掘り起こす未来図を参加者各々が探るきっかけ作りを目指す

全体を総じ幅広く市民に呼びかけることにより、いつも固定された同じ顔ぶれではなく、各企画テーマに沿った新たな参加者との話し合いを深める場となりました。

多様なテーマを通し、参加者各々が様々な角度から亀岡の魅力を掘り起こす機会を企画することが出来ました。

目標 2 について

亀スゴっ！・ソーシャル大学のテーマを、次世代へつなぐ伝統技術の継承、城下町と流域文化、歴史を学ぶ、独自の観光スタイルへの取り組み等とする。

亀スゴっ！第 8 回「ようこそ亀岡へ」ソーシャル大学第 3 回「亀岡の観光未来図～これからの外国人観光客誘致(インバウンド)を考える！」において、亀岡のまちとしての「ホスピタリティ(おもてなし)」、独自の観光スタイルへの取り組みをテーマとし具体的な事例として検討しました。

亀スゴっ！第 9 回「亀岡の由緒正しき妖怪たち」において古事記、日本書紀に記述される亀岡の妖怪から、亀岡の文化遺産として亀岡の歴史的、地理的、政治的な位置づけを学びました。

亀スゴっ！第 10 回「料理教室」において、亀岡野菜を使った旬の京料理の伝統を学びました。

ソーシャル大学 第 4 回「明智光秀と本能寺の変、そして亀岡」において、亀岡が出陣の土地となった本能寺の変の真相、また明智光秀と当時の丹波武士への考察を深め、亀岡の歴史的財産としての価値を評価をする場ともなりました。

目標 3 について

亀岡の伝統的な魅力(自然・文化資源)を伝承しながらも、現代との折り合いを探る取り組みを紹介する。

亀スゴっ！第 7 回「フェアトレードで亀岡から世界へ」において、フェアトレードと云う新たな価値観を基に展開する事業について学びました。

第 10 回「料理教室」第 11 回「ムクムクマーケット」において亀岡ならではの自然環境、農産物等を生かした伝統料理、手作りの良質な作品等を通し、日常生活を見直す契機とするとともに亀岡に根をおろした其々の取り組みを紹介しました。

第 12 回「亀岡アートボンチ 人×町×アート」において、亀岡で近年開業したばかりのショップオーナー、アーティストという若い世代を中心とした「カメオカアートボンチ」の取り組みを亀岡のまちを活性化するものとして評価し紹介しました。

どの企画においても若い世代と年配者とが同じ体験を通し世代を超えた交流の場を実現しました。特に年配者が若い世代から学ぶ機会となり、また、亀岡で何が出来るのかを模索する若年層にとっても大変有意義な企画であったとの反響がありました。。

目標 4 について

亀岡市内だけでなく市外にも広く呼びかけ亀岡の魅力を発信する場とする。

亀スゴっ！ソーシャル大学のどの企画においても、京都市、南丹市、城陽市、高槻市等、市外からの参加者があり、特にソーシャル大学第 4 回「明智光秀と本能寺の変、そして亀岡」においては、遠くは関東地域(東京、神

奈川、千葉)からも参加がありました。

これは私たちの「亀岡の魅力」としての発信が、亀岡圏内だけに留まらず広く全国にも評価される結果となりました。、私たちの活動を通し亀岡の魅力が多くの方々に伝わりましたことを大変嬉しく思います。

4. 協働の効果

※市民連携事業・行政連携事業のみご記入ください。
事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。

5. 今後の展開

事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。

今年度「亀スゴっ」「ソーシャル大学」の8回の開催し参加者総数750名を参加を得た実績、各回の目標の達成と成果を踏まえ、来年度も継続した活動目標を更に充実した内容で展開します。

来年度の活動目標

- 1 亀スゴっ！ソーシャル大学の開催により、様々な立場の参加者と共に話し合い、亀岡での暮らしのあり方や将来への展望を分かち合う場を作り、新たな亀岡の魅力を掘り起こす未来図を参加者各々が探るきっかけ作りを目指す。
- 2 亀スゴっ！・ソーシャル大学のテーマを、次世代へつなぐ伝統技術の継承、城下町と流域文化、歴史を学ぶ、独自の観光スタイルへの取り組み等とする。
- 3 亀岡の伝統的な魅力(自然・文化資源)を伝承しながらも、現代との折り合いを探る取り組みを紹介する。
- 4 亀岡市内だけでなく市外にも広く呼びかけ亀岡の魅力を発信する場とする。

「亀スゴっ！」においては多くの人たちと連携し息の長い活動として展開できるように、会独自の自立した運営を目指します。

「ソーシャル大学」においては、企画全体をスケールの大きなものとし、より深くテーマを掘り下げる機会とし、亀岡の魅力を多くの人たちに発信できるように、更に大きな基盤を作り展開することを目指します。

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

事業報告書

団体名：オフィス コン ジュント

1. 事業名	多文化共生事業—外国につながる子どもと保護者の支援を通して
2. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)

①ひまわり教室2教室の開催(月の3回開催・1回は休日)

a. ひまわり馬路教室(火曜日午後6:00~7:30)(2015年4月~2016年3月まで33回開催)
馬路文化センター: 亀岡市馬路町小米田45-4 0771-23-2005
子ども: 6名(日本籍・フィリピン籍)(小学生・中学生・高校生)
母親: 5名(フィリピン・中国・メキシコ)

b. ひまわりホッケジ教室(木曜日午後4:30~6:00)(2016年2月25日開講3月末まで4回開講)
法華寺: 亀岡市本町67 0771-22-1292
子ども: 5名(日本籍・韓国籍)(小学生・保育園児・幼稚園児)
母親4名(フィリピン・中国)

*ボランティア指導者: 2教室で15名登録(2016年3月19日現在)
元教師・元看護師・日本語教師・現役特別支援学級教師等

*活動内容
学年に応じて学習言語の指導支援活動として、日本語能力の低い外国につながる母親にかわり、宿題の点検や、遊びを取り入れながら学習に興味を引き出し、子どもに自信を持たせることをめざす。母親にはそれぞれの日本語力に応じて個別指導し、各自の話を聞く居場所となることも目指している。多くは会話力はあるが、読み書き能力は低く、学校からの配布書類も読めず、ゴミ箱に捨てていたケースもある。また、多くの日本人夫の手助けの無さや家庭内別居など問題も多い。

*それぞれの子どもや保護者への指導内容を全指導者が把握する必要があるため、2箇所の教室ごとに各回レポートを編集し、次回教室開校までに送付している。

②外国につながる子どもの指導者のための研修講座の開催

a. 学習言語の評価法に関する講座(2015年9月20日)15名参加
櫻井千穂さん(大阪大学)

b. 外国につながる子どもの地域との関わり(2015年10月3日)18名参加
土屋隆史さん(横浜市鶴見中学校国際教室担当)
清田淳子さん(立命館大学)

c. ひまわり教室ボランティア指導者を含む講座受講生の発表会(2016年2月21日)18名参加
ひまわり教室代表者(児嶋)を含む4名が発表
講評: 清田淳子さん

③こどもグローバルセッションの開催(2015年8月23日)西本好江邸(神前)20名参加
ゲスト: 波々伯部宏彦さん(オーボエ演奏家・精華町在住)
Jacob Biro(ジェイク)さん(精華町国際交流員・Stillwater市出身・OSU卒業生)

児嶋俊見さん（木版画家）

- a. オーボエコンサート（波々伯部さん指導）
- b. 神前の米でおにぎり提供（西本好江さん）
- c. 姉妹都市の話（ジェイクさん）
- d. ひつじプロジェクト：姉妹都市 Stillwater 市との子どもの絵の交換プロジェクト

干支のひつじを大きな和紙に画く（児嶋俊見さん指導）

* Stillwater 市のコミュニティセンターやワンダートリウムに展示され、10月の亀岡市代表団が展示されている場所を訪問した。

3. 成果

事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。

1. ひまわり教室

馬路教室は2014年度33回につづき、2015年度も33回（夏休み・冬休み補講は含まない）継続して開催することができた。このことは、子どもたちや外国につながる保護者（特に母親）の週に一回自由に母国語で話したり、自分の困ったことを話せる居場所にもなっている。子どもたちの所属する学校には、毎回、指導者に送付しているレポートを同時に送付しているので、同時期に子どもたちの課題を見ることができた。時折は、所属校の担任教師（大成中学校・育親中学校・安詳小学校）が馬路教室に参観に来られたり、メールで様子を知らせてくれたりしていた。2014年度に比べ、関係はより密になったと言える。また、小学校の校長会（2014年度）や中学校の校長会（2015年度）でのひまわり教室の説明の場も与えられ、理解を深めることができたと言える。また、市の教育委員会を通じて、外国につながる講座の開催ちらしも各小・中学校に配布している。講座には、学校長（城西小学校）の参加もあった。また、学校にはひまわり指導者とともに学校訪問をした。（城西小・大成中・亀岡小・千代川小）ただし、南丹市の学校（八木町）には訪問していない。

子どもたちの学習では、城西小学校特別支援教室に入級し、個別にゆっくり指導を受け始めたN君は、漢字テスト大会や算数計算テスト大会でも満点に近い成績を取り、自分で指導者に報告している。

2. 外国につながる子どもの指導者のための研修講座

- a. 学習言語力と言っても目に見える場合とそうで無い場合もあり、今までは「努力が足りない」とか、「頭が悪いのかもしれない」と無視されがちであった子どもたちが、どの程度の読み物が読めるかを段階を追って編纂した読み物集を購入し、その評価方法についての講座を持った。
- b. 実際に国際教室を持つ横浜市鶴見中学の土屋講師から子ども達との接する事例や外国訪問での先例を聞き、自分達の疑問をぶつけるセッション形式で理解を深めた。
- c. 4名の発表とその後のセッションについてのレポートも附記する。具体的な発表を元にそれぞれが質問し、今後の継続開催を望まれている。

3. 子どもグローバルセッション

文化のちがう子ども同士が交流する目的でアート交換プログラムを Stillwater 市と継続してきたが今回は、歌とアートを盛り込み、姉妹都市の雰囲気聞きながら、送る干支の絵の制作に励んだ。

4. 協働の効果	<p>※市民連携事業・行政連携事業のみご記入ください。 事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。</p>
5. 今後の展開	<p>事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。</p>
<p>今後は、ひまわり教室を2箇所にあやし、継続する。また、2箇所の子どもたちを合わせて、子ども達の保護者をゲストに、保護者の母語や文化を学ぶ子どもグローバルセッションを展開する。また、指導者同士の研修講座を開催し、京都府のみならず、滋賀県・三重県などからも受講生が参加し、またいろいろな展開を話し合う場を開催する予定である。京都府国際センターとの共催事業も予定され、麒麟財団の平成28年度麒麟・子育て応援事業助成金を得て、継続していきたい。</p>	

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

丹波



外国出身の親を持つ小中学生の学習支援として、亀岡市の市民団体が開く「ひまわり教室」が、開設から1年を迎えた。通う子どもたちはみな、日常会話に支障はなくても、漢字の熟語の意味を理解しにくいなど言葉の不自由

さを抱える。日常会話ができるゆえに、外国にルーツを持つ子どもならではの学習支援の必要性に気付きにくい。教室を運営する市民団体も市教委も実態を十分に把握しきれていないのが実情だ。(芦田恭彦)

外国にルーツ持つ子 日本語理解さまざま

学習支援の把握重要

亀岡の指導教室 開設1年



「ひまわり教室」で元教師のから宿題などを教わる子どもたち(亀岡市馬路町、馬路文化センター)

教室は、異文化交流「ユント」が2014年度、火曜日の夕方に開講している。現在、中国、タイ、フィリピン、メキシコの3カ国の母親をそれぞれ持つ小中学生6人が通う。母親自身、カタカナや漢字など目分が知りたい範囲で日本語を学んでいる。元小学校教諭ら15人が交代で、一対一の学習指導を行っている。

「ユント」は「抽象的な言葉の意図などはイメージしにくい」と話す。分む。毎回、指導内容を記録し、それぞれの理解度や指導方針などを共有している。

文部科学省の統計では、国内の公立小学校に学ぶ4年生の男子児童は2万9198人(14年度)で、大勢いる教室は2万9198人(14年度)。

「(9)は「学校は楽しいけど、大勢いる教室で勉強するのは苦手」。

「(10)は「学校は楽しいけど、大勢いる教室で勉強するのは苦手」。

学校と連携 居場所作りを

必要な日本国籍の児童生徒は7897人(同)で、ともに増加傾向にある。

亀岡市教委によると、外国出身の親を持つ子どもは市内に4人おり、各校で特別支援教室や補習などでの学習支援に取り組んでいる。市教委は市内に4人おり、各校で特別支援教室や補習などでの学習支援に取り組んでいる。市教委は市内に4人おり、各校で特別支援教室や補習などでの学習支援に取り組んでいる。

「(11)は「親が外国出身でも、本人が日本語が不慣れな場合もある。外国にルーツがあっても状況はさまざま。すべて把握していきれない」と

「(12)は「抽象的な言葉の意図などはイメージしにくい」と話す。分む。毎回、指導内容を記録し、それぞれの理解度や指導方針などを共有している。

「(13)は「親が外国出身でも、本人が日本語が不慣れな場合もある。外国にルーツがあっても状況はさまざま。すべて把握していきれない」と

「(14)は「親が外国出身でも、本人が日本語が不慣れな場合もある。外国にルーツがあっても状況はさまざま。すべて把握していきれない」と

丹波 2015

事業報告書

団体名：障がい児支援団体キッズ・バリアフリー

1. 事業名	障がいの有無に関わらず共に遊び学ぶ場支援
2. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)
平成27年5月15日「春の親子ハンドマッサージ」準備、「夢を実現する＝皆つながる」打ち合わせ	
30日「春の親子ハンドマッサージ」開催 参加者26名	
ガレリアかめおか2階・和室 午前中10:30~11:30	
6月9日「春の親子ハンドマッサージ」集計、「夢を実現する＝皆つながる」打ち合わせ	
20日「夢を実現する＝皆つながる」開催 参加者120名(京都新聞が取材)	
NPO法人アシスト事業所 午後1:30~4:30	
6月30日「夢を実現する＝皆つながる」集計	
7月14日「夏の親子ハンドマッサージ」準備	
8月22日「夏の親子ハンドマッサージ」開催 参加者19名	
NPO法人アシスト事業所 午前中10:30~11:30	
10月20日「夏の親子ハンドマッサージ」集計、「秋の親子ハンドマッサージ」準備	
11月8日「秋の親子ハンドマッサージ」開催 参加者18名	
ゲストハウス藤原邸2階・和室 午前中10:30~11:30	
24日「秋の親子ハンドマッサージ」集計、「リーフレット制作」打ち合わせ	
12月8日「リーフレット制作」打ち合わせ	
平成28年1月19日「リーフレット制作」打ち合わせ、「冬の親子ハンドマッサージ」準備	
2月13日「冬の親子ハンドマッサージ」開催 参加者11名	
ゲストハウス藤原邸2階・和室 午前中10:30~11:30	
2月20日「冬の親子ハンドマッサージ」集計、「リーフレット制作」打ち合わせ	
3月1日~「リーフレット制作」各相談窓口で最終確認	
20日「リーフレット制作」最終チェック	
28日「リーフレット制作」印刷	
30日「リーフレット制作」完成	

3. 成果	事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。
<p>今回の支えあい町づくり支援金での事業である「親子ハンドマッサージ」「夢を実現する＝皆つながる」などの活動を通してキッズ・バリアフリーの活動を知り、一般相談という形で子育てのご相談に来られた方が6組（メール相談は除く）ありました。すべて障がいの診断を受けられたお子様をお持ちのお母さんからのご相談でした。その中で困難ケースの場合は障害福祉課から指定相談窓口とされている事業所へ計画相談を受けられるようおつなぎいたしました。キッズ・バリアフリーの一般相談は理事長：末吉が担当させていただいております。それぞれ皆さんがお話をされたのは「不安・孤立」といった内容でした。活動を通して感じることは、専門的な相談支援の一步手前の相談窓口の役割は、同じ悩みを共有できる当事者同士との会話なのだと感じました。懇談会などでは話しにくい内容も一対一である事で安心し、話せたことで少し不安が減り、視野が広がり、活動や懇談会などへ積極的に参加されるようになる等の変化があるのだと感じます。ご家庭で孤立し悩んでいる方々への情報提供の支援が本当に大切だと感じます。</p>	
4. 協働の効果	※市民連携事業・行政連携事業のみご記入ください。 事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。
5. 今後の展開	事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。
<p>申請時の事業計画書の地域課題について 障がいと向き合う子ども達（障害者手帳交付内、障害者手帳交付外）の家族を支える支援場所が足りていない事をあげさせていただきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 事業実施の背景や状況 「障がい＝孤立」のイメージを持たれている方が非常に多いなかで、お子さんが医師から障がいの診断を受けた後に保護者が気軽に話せる場所（貧困家庭にも利用できる）が必要だと感じます。 ①離婚など家庭崩壊するケース。 ②祖父母に障がいを理解されず母親が自分を責め、外出しにくく、とても生きにくい状況になっているケース。 ③虐待に至ってしまい親子で傷ついているケース。 ● 今後の課題 共に過ごす時間づくりと情報交換が必要だと感じます。障がいと向き合う、またはその可能性のある子どもさんの家庭に対して、今後も温かい場所を作り続けたいと考えています。 <p>新年度の事業に、中澤利彦さんとのダンスイベント、子ども食堂の活動を計画しております。</p>	

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

平成 27 年度「障がいの有無に関わらず共に遊び学ぶ場支援」キッズ・バリアフリー活動実施報告

- 平成 27 年 5 月 30 日 (ガレリア和室)「春の親子ハンドマッサージ」(参加者親子 9 組 26 名)



- 平成 27 年 8 月 22 日 (NPO 法人アシストさん事業所)「夏の親子ハンドマッサージ」(参加者親子 7 組 17 名)



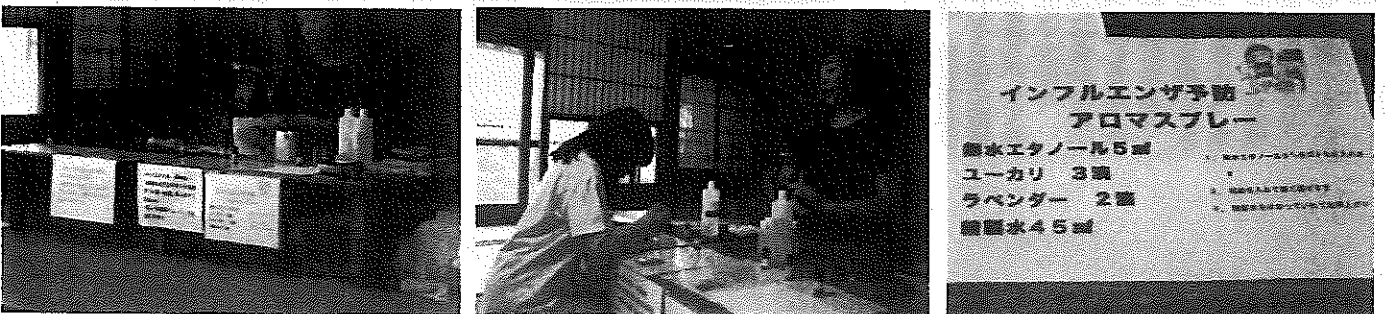
- 平成 27 年 11 月 8 日 (ゲストハウス藤原邸・2 階 和室)「秋の親子ハンドマッサージ」(参加者親子 5 組 14 名)



イベント終了後、同会場にてポットラックパーティー (一品持ち寄り食事会) を開催いたしました。(参加者親子 9 組 26 名)



- 平成 27 年 2 月 13 日 (ゲストハウス藤原邸・2 階 和室)「冬の親子ハンドマッサージ」(参加者親子 4 組 11 名)



インフルエンザ予防
アロマスプレー

お水エタノール 5 割
ユーカリ 3 滴
ラベンダー 2 滴
お水 45 割

● 平成 27 年 6 月 20 日 (NPO 法人アシストさん事業所)

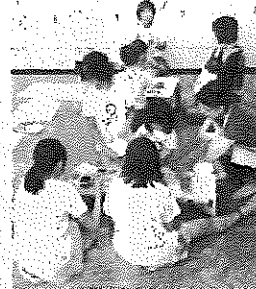
NY アポロシアター優勝ダンサー中澤利彦ダンス&トーク「夢かなえる=皆つながる」(参加者 127 名)

南丹ママさんプラスの皆さんの演奏

ガレリアセタワークショップ 作業所, 手作り品, お店出店のご協力



学園大学「レクリエーション研究会」[HAPPY TURN]のダンス



参加者ダンスレッスン



中澤氏ダンス&トーク



京都新聞・丹波版に取り上げて頂きました。

障害問わずダンス

子育て支援拠点発足向け

ダンスを通して子育て「キッズ・バリアフリー」の推進。同団体でも教育を考えるチャリティイベントが20日、亀岡市安町のNPT西日本亀岡別館であった。ニューヨークで活躍するダンサー中澤利彦さん(30)が、夢に向かって活動する大切さを語った。

同市の障害者支援施設

中澤さん(前列左)とダンスを楽しむ来場者たち
—亀岡市安町・NPT西日本亀岡別館

丹波総局
〒621-0805
亀岡市安町釜ヶ淵
代表 0771(22)3515
FAX 0771(22)3517
tanba@mb.kyo.ta-np.co.jp

南丹支局
〒622-0002
南丹市福徳町美園町
代表 0771(62)0434
FAX 0771(62)2821
nantan@mb.kyoto-np.co.jp

北条通信部
0771(75)9035
(FAX専用)

公民館サークルの力作一堂

亀岡でまつり 手まり展示や舞台発表

公民館サークルの会員たちの力作が並ぶ会場
(亀岡市余部町・ガレリアかめおか)

で、親子連れ約100人が参加した。中澤さんは子どもたちと一緒に簡単な踊り

を楽しんだ後、ユトモラスな動作を交えた華麗なダンスを披露した。飲食店で働いていた25歳の時、奮起して渡米した経験を振り返り、「夢を実現するには具体的な目標を持つことが大切」と語り掛けた。(岩田恭彦)

事業報告書

団体名： わたぼうしの会

1. 事業名	なんたんで普通にくらすことⅡ 青野浩美さんコンサート
2. 実施内容	実施した内容を具体的に記入してください。(日時、場所、参加者数、内容など)
<p>平成27年6月27日午後3時から5時まで、気管切開をした声楽家、青野浩美さんをお招きし、ガレリアかめおか響ホールにて、青野さんの今に至る闘病生活、歌に対する思い、これからの事などのお話を交えながらのコンサートを開催しました。</p> <p>120名の方が来て下さり、青野さんの軽快なトークと美しい歌声に、あっという間に時間が過ぎました。来場者の年齢層が幅平買ったのですが、クラシックから童謡、映画音楽まで幅広く選曲して頂いて、一緒に歌ったり、「しあわせならてをたたこう」の歌で会場が一つになる事が出来ました。</p> <p>アンコールはしませんよと仰っていましたが、みんなのリクエストにこたえていただき、温かい拍手でコンサートを終える事が出来ました。</p>	
3. 成果	事業の実施により、課題解決がどのように図られたのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、事業の効果や成果を数値、具体例などを用いて具体的に記入してください。
<p>事前に医療ケアについての専門用語についての資料を配布し、青野さんの話がスムーズに進むようにしました。コンサートの中で、青野さんも幅広い方にわかりやすいように、病気になってから今までで不自由に感じた事、くじけそうになった事、多くの支えで今がある事を、自分の体験を踏まえてお話し下さり、コンサート後に取ったアンケート調査でも『良かった』『元気をいただきました』『感動しました。』などの声を多くいただきました。</p> <p>私たちが暮らすこの地域の中でも、誰もが安心して普通に暮らしていけるように、一人一人の小さな心遣いや、支えあえる優しさを、一人でも多くの方と共有できたかなと思います。</p> <p>コンサートに参加した方々の胸にまかれた種が、それぞれの生活の場で目を出し大きく花開き、誰かの心の種になって広がっていくことを望みます。</p> <p>コンサート終了後にサイン会をして頂きましたが、その場でも青野さんに直接感謝や激励の声かけをしている方々おられました。</p> <p>今後とも青野さんの活躍を心より、応援したいと思います。</p> <p>そして、私たちもこの地域の中で声をあげて生き続けたいと思います。</p>	
4. 協働の効果	<p>※市民連携事業・行政連携事業のみご記入ください。</p> <p>事業を協働で実施したことによる効果について、数値や具体例などを交えながら具体的に記入してください。</p>

5. 今後の展開	事業の実施成果を受けて、今後の事業展開をどのようにされるのか、申請時の事業計画書と対比させるかたちで、記入してください。
----------	--

今回のコンサートを経て、『医療的ケア』という課題については個々の認識が未熟であったり、身近に医療的ケアが必要な方がおられたり、仕事としてかかわっておられない場合は、日常の中で共生して行く事は難しいと改めて認識しました。

特に支援学校や卒業後の場での『医療的ケア』についての認識はとても低かったと思います。

しかしながら、今回のような実体験を踏まえた体験者との時間を共有することで、お互いの事を認識し、歩み寄り、いたわりの気持ちで接する事は難しくないと感じました。

『医療的ケア』については個々の環境やそれぞれ抱える問題によって何が必要かは異なってくると思いますが、まずは『医療的ケア』がどういうもので、どんな状況なのかを、これからもより多くの方に、認識して頂くために、声をあげ続けていきたいと思っています。

それから、障害、年齢、性別、仕事などに関わらず、明日という日に夢を持って生活していける環境作りも大切なことだと思いました。

自然災害や、社会情勢、温暖化などによる異常気象など不安が多い昨今ですが、せめて、人として自分の周りの人だけでなく自分自身にとっても、過ごしやすい社会になって欲しいし、そのために何が出来るのかを考え続けていきたい。

不特定多数の入場者の方の為、今後のフォローについては個人的に啓発とかは難しいとは思いますが、次回また医療福祉に関する事業を温めて企画し、改めて啓発して行きたいと考えています。

今回のコンサート後のアンケート結果を踏まえて、まだまだ地域の中での認識や当事者の苦労などの理解が得られていないことが分かりましたが、こういった活動を繰り返すことで、少しでも多くの方に医療的ケアと福祉についての事を知ってもらえる機会を作っていきたいと考えています。

肢体不自由児を抱えての活動なので、一つの事業をするのもなかなか大変なこともあります。息の長い活動で、今後とも地域の中でどのような障害を抱えていても、普通にいらしていける街づくりを行っていきたくと思っています。具体的には、大きなことはできませんが、子どもと共に社会参加をすることで理解を深めてもらえれば嬉しく思います。私たちが参加できる行事を各市町村の福祉課の方にも企画して頂ければ嬉しいと思うのですが。ぜひとも私たちの存在についての理解と、温かい見守りをお願いしたいと思います。

今後も福祉関係、医療関係だけではなく社会にメッセージを発信して行きます。

※チラシや参加者への配布資料、事業実施写真など実施状況が分かる資料を添付してください。

※記載内容が本様式に入りきらない場合は、適宜追加してください。

～なんとんで普通にくらすことⅡ～
青野浩美さんコンサート



平成27年6月27日(土)

入場無料

時間 15:00～17:00 (14:30開場)
会場 ガレリアかめおか 響ホール (定員150名)

『わたし“前例”をつくります』の著作者 青野浩美さん、気管切開をした声楽家。
言葉にしてしまうとたった1行になってしまいますが、彼女の素晴らしいところは、美しい歌声、音楽に対する熱い思い、何より「生きる」という強い心をお持ちの女性。声楽家にとって声を失うということの辛さ…青野さんの病気になってからの様々な試練を乗り越え、夢に向かい前に進んでいく力は家族や、友人、青野さんに関わった人たちの応援があればこそではないでしょうか？そして今、彼女はそのすべての方たちに勇気と希望を与えています。

人生の中で、どんなに辛い事があっても、卑屈にならず前向きにチャレンジしていく彼女のこれまでの日々を、美しい歌声と共に多くの方に届けたいと思います。自分自身の障害を受け入れること、生きていくために必要な医療ケアのこと、夢を持って生きていくということを考えるコンサートにしたいと思います。

◆ 裏面の申込書に必要事項をご記入のうえ FAX にてお申し込みください ◆
※事前申込なしで当日来場も可能ですが、お申し込みいただいた方優先となります

主催 わたぼうしの会

共催 南丹圏域障害者総合相談支援センター結丹(ゆに)
亀岡市障害者相談支援センターお結び
花ノ木医療福祉センター
障害者生活支援センターこひつじ

後援 南丹広域振興局 亀岡市 南丹市 京丹波町
(予定) 亀岡市教育委員会 南丹市教育委員会 京丹波町教育委員会

お申し込み・お問い合わせ先

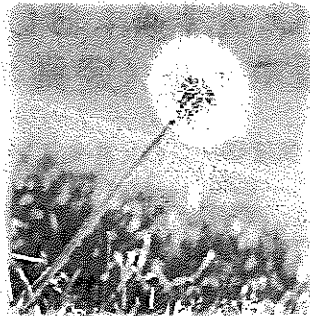
〒621-0042 亀岡市千代川町高野林西ノ畑 16-19
南丹圏域障害者総合相談支援センター結丹(ゆに)事務局
TEL: 0771-20-1262 FAX: 0771-20-1246
担当: 和田 s-wada@syokaen.jp

【わたぼうしの会】とは

“わたぼうしの会”は、重度重複障がいの子どもたちが、より良い生活を送るために、親である私たちの知識向上やサポートをしてくださる方と更に連携を図ることを目的とし、2012年に発足しました。丹波支援学校在校生および卒業生の親を中心としたメンバーで活動をしています。

重い障害を持つ親同士、悩みを打ち明けたり、愚痴をこぼしたり、励ましあったり、制度や病気についても勉強していけるような、温かい楽しい会を、息を長く続けていけたらうれしいと思っています。月に一度参加できる方で集まり、勉強会や語らいの場を持っています。

“わたぼうしの会”の名前の由来は、『タンポポが咲いた後でできるわたぼうしは、一つ一つはふわふわと頼りなさげですが、どんな荒れ地でも根をしっかりと張り、誰もが知っているかわいい花を咲かせます。ふんづけられても、カンカンの日照りでもじっと耐え抜いて、また花をもたげてきます。私たちもそんな風に強くたくましく大きくなっていきたい』との願いで付けられました。



2013年2月 わたぼうしの会